

# 経営計画とFM企画（ファシリティ建設）

## 経営環境の激変期

コニカ、  
ミノルタ  
経営統合

カメラ、フォト  
創業事業  
からの撤退

経済危機  
リーマン  
ショック

環境激変に耐える「筋肉質」な企業体質への変革

## 新経営戦略の展開期

### 既存事業の強化

- ・事業の集中と選択「ジャンルトップ戦略」
- ・開発機能の強化「生産性向上」

### 新規事業の育成

- ・オープンイノベーションの推進
- ・新事業開発部門の集約配置

新戦略を支援するファシリティ検討

## 研究開発機能強化の実践期

### 「働き方」

開発力強化を  
実現する  
ワークスタイル

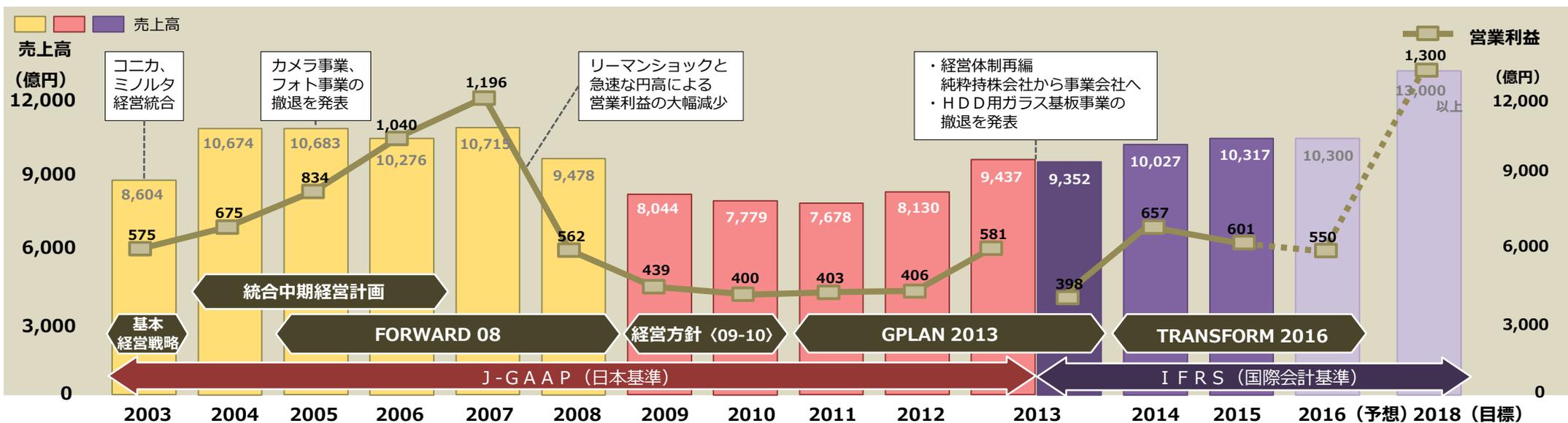
### 「働く場」

「働き方」変革を  
実現する  
ワークプレイス

### 「働く空間」

「働き方」と  
「働く場」の変革を  
加速する施設

3つの領域で、FMの継続的・効果的な推進



FM体制	経営企画（本社）が拠点戦略を担当し、FM(拠点統廃合、新施設建設)提案。(FM関連諸施策とは関係なく、業績は向上)	エンジニアリング子会社にFM企画部門を設置。経営企画（本社）と連動したFM(戦略・企画)推進	本社に総務部を新設し、FM機能を設置。総務部門の子会社（オペレーション）と一体となったFM推進
------	---	--	---

FM施策	効率化のための拠点統廃合を計画（未実施）	新経営戦略を施策に反映。新研究棟検討など、拠点整備計画が本格スタート	働き方、働く場、働く空間をトータルに整備・改善する活動を実践
------	----------------------	------------------------------------	--------------------------------

- 経営統合で、研究開発人員が**倍増**
  - ・中国への生産拠点移設により、空洞化した旧工場建屋群（愛知県豊川市、東京都八王子市）に**無計画に収容**（3000名）

- 経済危機を体験
  - ・経営と連動したFMの重要性を認識

- 経営体質強化のための**イノベーション拠点戦略検討**スタート
  - 「働く場」の変革：全国主要拠点の**ワークプレイス改革**スタート
  - 「働き方」変革：生産性向上活動スタート（丸の内JPタワーへ**本社移転**）



# 「One Konica Minolta」を体現したファシリティ

## 【デジタル印刷に係る組織・機能を集約】



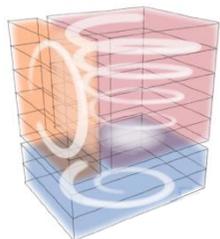
主力事業であるデジタル印刷システムに関連する開発機能を結集。機能間の高度連携により開発効率を向上させ、外部組織とも連携しながら、グローバルR&Dの本拠地となる施設を目指す。

## 【異なるフロアを結び付けるための巨大アトリウム】



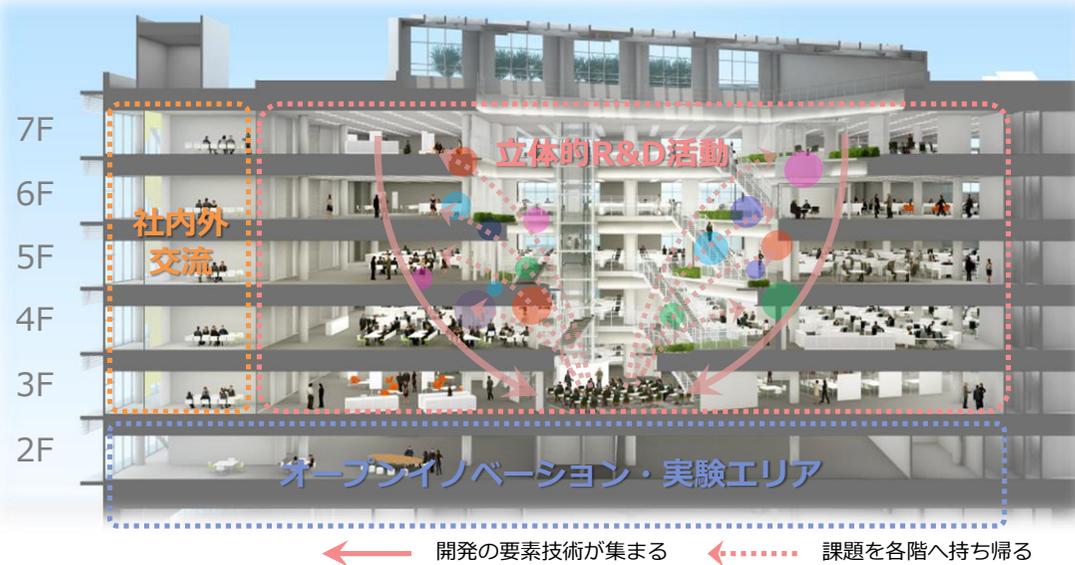
すり鉢状のアトリウムが、フロアを越えた視覚的・物理的つながりを生む。太陽の年間の動きをシミュレーションした形状により、フロアの奥まで快適な光環境を提供。

## 【機能ゾーニングコンセプト】



知の融合と創造を促す3つの機能を組み込んだ建築構成

- 立体的R&D活動**  
「One Konica Minolta」で組織の壁を越えて総力を結集するワークプレイス
- 社内外交流**  
積極的な外部との共創
- オープンイノベーション・実験エリア**  
モノづくり現場での高度な折り合せとスピーディな実行



## 【試作エリアを設置】



研究開発と試作が同じ建物内で完結することで、課題解決への緊密な連携が可能。

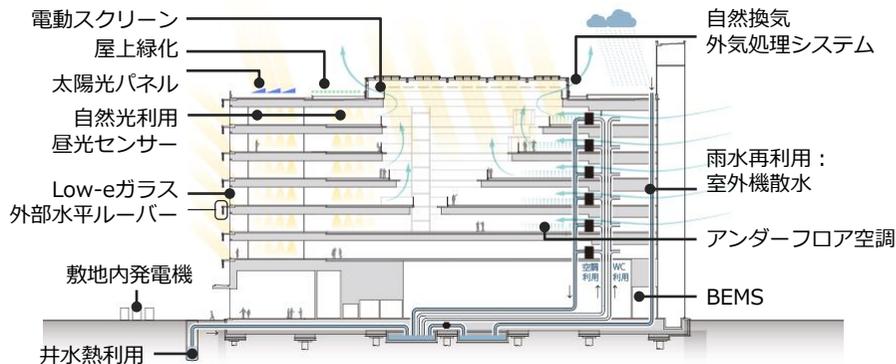
## 【オープンイノベーションを推進】



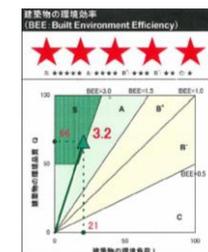
既存の保有技術を一堂に集め、お客様やビジネスパートナーに分かりやすく伝える。パートナーの施設内中長期滞在が可能で、新規事業育成に結びつける。

## 【徹底的な省エネルギー仕様】

トップライトとアトリウムの形状に環境性能をもたせ、敷地内の豊富な井水の活用など、様々な装置の採用でエネルギー消費を最小限に抑える計画とした。



## 【環境経営の強化】



環境経営への各種取り組みにより、CASBEE最高評価を取得。

(第ERICAS140003NC号)

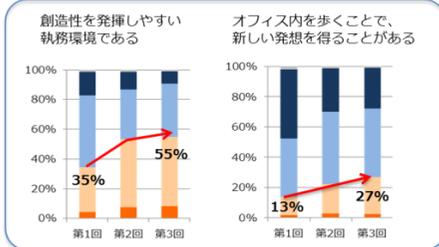
建物区分	: 研究所/新築/自社ビル
事業者	: コニカミノルタ株式会社
建築地	: 東京都八王子市石川町
使用開始時期	: 2014年4月
延床面積	: 約40,000㎡
オフィス部分面積	: 約30,000㎡
入居者数	: 約1400人
設計・施工	: 株式会社竹中工務店

# SKT棟建設・FM戦略による効果

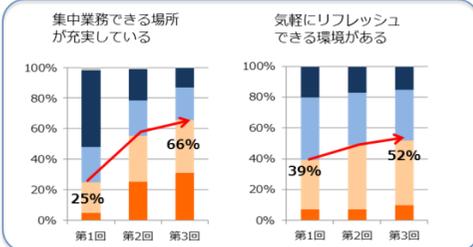
## 【1.品質的視点】

- ① 関連組織集約及び大空間ワンルームオフィス化による研究開発力の強化
- ② 従業員の健康力向上(他サイトより評価がやや高い傾向にある)

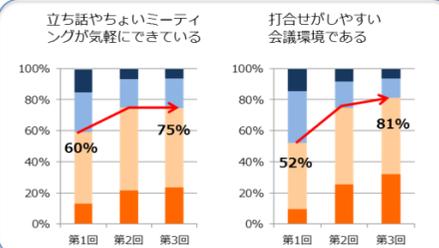
### ・創造性の発揮を支援する



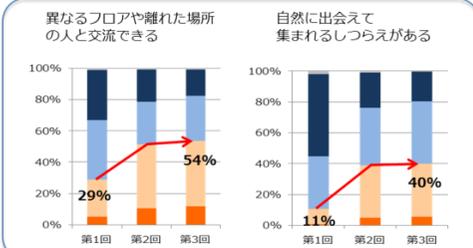
### ・自他コンセントレーションが出来る



### ・クイックなコミュニケーションが出来る



### ・横断的な交流の機会を誘発する



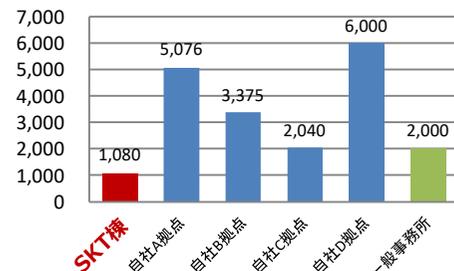
※現在4回目を実施中

## 【2.財務的視点】

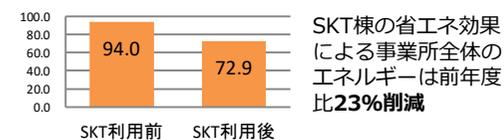
- ① 環境負荷、エネルギーコストの大幅削減 (30%減) 省エネ施策・運用改善による削減 (15%減)
- ② 組織の再編によるファシリティコストの低減 (25%減)

SKT棟 省エネ仕様		削減量 (ℓ/m <sup>2</sup> ・年)	
光	照明	7.87	8.50
	自然採光+照度センサー	0.41	
	太陽光発電	0.22	
空気	外調機CO2制御	2.91	7.42
	床下空調	1.90	
	高COP冷空冷チラー	0.86	
	外調機外気冷房	0.85	
	自然換気	0.41	
	外調機全熱交換器	0.40	
	日射遮蔽	0.09	
水	西側熱だまり排気	0.003	0.62
	井水熱回収	0.46	
	PAC空調機散水	0.16	
合計		16.54	

### 【エネルギー効率の常時モニタリング】(MJ/m<sup>2</sup>・年)

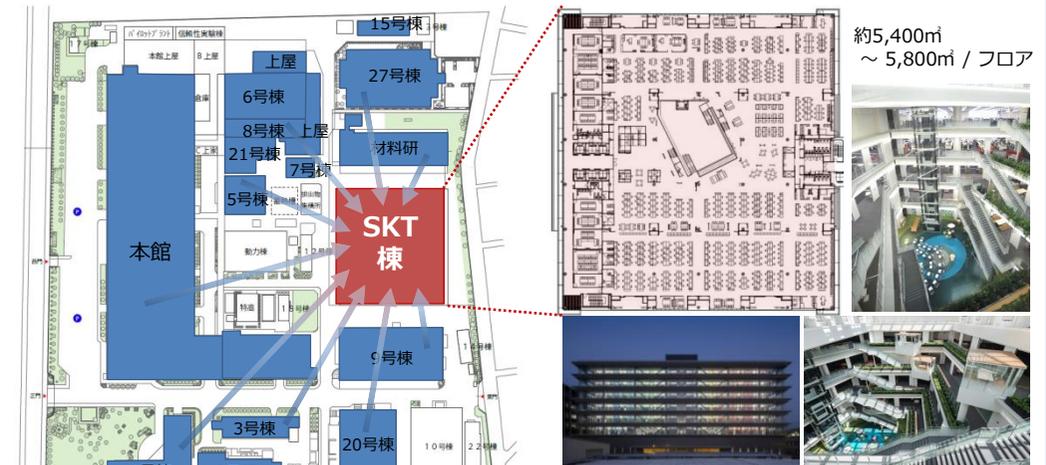


### 【単位面積当たりエネルギー消費量】ℓ/m<sup>2</sup>



## 【3.供給的視点】

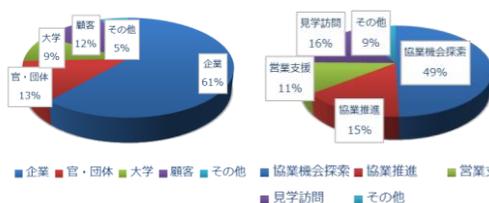
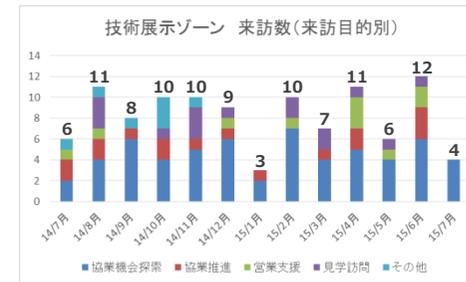
- ① 分散していた組織・機能の集約配置によるスペースの適正化
- ② 1フロア面積拡大とオフィスのワンルーム化による組織改編への対応力強化



大規模なフロアにすることで収容人数のキャパシティを強化。(将来的に25%まで増員可。) SKT棟への組織集約で生まれた、サイト内の空きスペースを戦略的活用するために計画中。

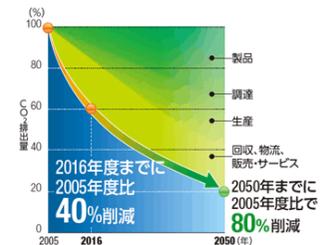
## 【4.その他】

- ① 共創エリアを軸にしたオープンイノベーションの推進
- ② 環境経営強化



### エコビジョン2050

1. 製品ライフサイクルにおけるCO<sub>2</sub>排出量を、2050年までに2005年度比で80%削減する。
2. 限りある地球資源の有効活用を最大化と資源循環を図る。
3. 生物多様性の修復と保全に取り組む。



「環境経営度調査」製造業総合ランキング1位  
日本経済新聞社、2014年

「Dow Jones Sustainability World Index」構成銘柄に採用  
Dow Jones Sustainability World Index、2014年、3年連続

「企業の品質経営度調査」総合ランキング1位  
(財)日本科学技術連盟、2014年

「地球温暖化防止活動」環境大臣表彰  
環境省、2013年

「資源循環技術・システム表彰奨励賞」  
(社)産業環境管理協会・経済産業省、2013年

「トップレベル事業所」認定  
東京都、2012年